

今回は米高騰について。

☆===== [時事解説] =====☆

「令和の米騒動」と呼ばれたコメ不足。2023 年度産米が不作だったことなどにより、店頭からコメが消え、消費者がコメを買えないという事態が生じた。これに伴って米価は高騰。政府は 2024 年度産の新米が出回ることに より自然に落ち着くという見通しを立てていましたが、その後も米価の高値は 続き、2024 年度の主食用玄米一等 60kg の相対価格は 23,191 円、2014 年度の相対価格 11,967 円の二倍近い価格となりました¹。

コメの適正価格がいくらなのかという問題はさておき、消費者にとっては安 い米価が生活物価の前提となっているわけですから、この値上がりは確実に生 活を圧迫することになります。

米価の高騰はなぜ起きたのか。食品業界向けの情報誌シェアシマ info は次の ように分析しています²。

1. 大きな要因として、2023 年の猛暑により、全国的に米の生育に影響が出た こと。
2. インバウンド需要の回復により、外食産業やホテル業界での米の消費が 増え、需要が一気に拡大したこと。
3. 家庭での米の消費も増加傾向にあり、国産米を選ぶ消費者が増したこと。
4. 農業用機械の燃料費や肥料代、人件費など生産コストの上昇。

ここで「あれ？」と思われた方はニュースをよく見ておられる方ですね。そ う政府のいうアレが原因とされていないのです。政府のいうアレというのは、 一部の卸業者がコメを抱え込んで、コメの値上りを待っているのではないかと いう見解、いわゆる「消えたコメ疑惑」というやつです。

「消えたコメ疑惑」にはある程度説得力があるように思えます。例えば日本 経済新聞は次のように指摘します³。

大手集荷団体が 1 月末時点で集めた 2024 年産米は 221 万トンで、前年同月 (244 万トン) と比べて 23 万トン (9%) 少ない。24 年 12 月時点では前年同月差はマ イナス 21 万トンで、減少量は 2 万トン広がった。市場に出回らず行方不明にな っている「消えたコメ」が増えたことを意味する。

もう少し露骨に報道しているマスコミもあります⁴。

¹ MINORASU 2025 年 1 月 27 日付 <https://minorasu.basf.co.jp/80327>

² シェアシマ info 2025 年 2 月 20 日付 <https://shareshima.com/info/719745218>

³ 日本経済新聞 2025 年 2 月 28 日付
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB27BSM0X20C25A2000000/>

⁴ 日刊ゲンダイ 2025 年 1 月 24 日付
https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/life/366687#google_vignette

米流通評論家の常本泰志氏はこう話す。

「外食やスーパーなど売り先が確保できているものの手元在庫に乏しい業者は、高値でも買わざるを得ない状況です。これらは適正在庫の確保ですが、それを逆手に取って、コメ転がしのことを行っている業者もいます」

具体的な事業者の名前が挙がっていないため、その真偽は不明ですが、確かにそう思わせるような現象が生じているといわれています。政府もそこを原因だとして、政府備蓄米21万トンの市場への放出を行いました。今回放出した備蓄米は、一年以内に同量を買戻す(備蓄しなおす)ことが条件となっています。⁵

ただ考えてみるとこの「消えたコメ疑惑」には不自然な点があります。それは政府の備蓄米放出後も米価が上がり続けていることです。朝日新聞が次のように伝えています⁶。

総務省が28日発表した2月の小売物価統計(東京都区部)で、コシヒカリ(5キロ)の価格が前月よりも178円(4%)高い4363円となった。昨年5月から10カ月連続の上昇で、前年同月に比べると1922円高く、1.8倍になった。政府が備蓄米放出を決めても、米価高騰に歯止めがかからない。

同紙では店頭価格に反映するまでにはタイムラグがあるという見方を示していますが、もし「コメ転がし」を狙うような業者がコメを抱え込んでいるのなら、機を見て即座に放出を始めていたはずですが、したがってタイムラグが発生することはないのではないのでしょうか。コメを確保している業者には何かほかに思惑があるのではないか。そのヒントになる報道が同記事の中にありました。次の一文です。

農水省は「口先介入」の効果を期待していたものの、米価は下がっておらず、先物取引などの業者間取引でも高止まりが続いている。

コメの現物を売り買いすることで差益を得ることが目的なら、政府の備蓄米放出の方針が出された直後に動きがあつてしかるべきなのに、それがなければ、コメの現物を取り扱わない先物取引で儲けようとしている事業者の存在を疑ってもよいのではないのでしょうか。

ここで少しコメの先物取引について解説しておく必要があります。

日本でコメの先物取引(堂島コメ平均)が正式に始まったのは2024年8

⁵ NHK 首都圏ナビ 2025年2月3日付ではこう報じられている。「農林水産省は、1月31日、有識者による会議を開き、政府の備蓄米に関する運用の見直し案を提示しました。

これまで、政府の備蓄米は、深刻な不作や災害時などに限って市場に放出するとしていましたが、見直し案では、コメの流通が滞っていると判断した場合にも、1年以内に同じ量を買戻すことを条件に、放出できるようにするとしています。」 <https://www.nhk.or.jp/shutoken/articles/101/019/26/>

⁶ 朝日新聞 2025年2月28日付

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a6c138528094bb169c7fabd36b4f02598930f25c>

月13日のことです。つまりコメの価格が高騰し始めた昨年の夏です。コメの取引といっても、実際に売り買いの対象になるのは「米価」で、実物の米そのものは扱いません。売り買いするのは「堂島コメ平均」と呼ばれるものです。北辰物産株式会社の解説によれば、農林水産省が毎月公表する「米の相対取引価格・数量」における全銘柄についての出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用米の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を、前年産検査数量で加重平均した値を基に、米取引関係者の判断に関する調査から推計して算出した数値（1円の位を四捨五入する。）とされます⁷。

具体的な取引では、偶数月を限月（決済月）として決算日に購入価格と決済価格の差額を精算します。この時購入時よりも限月時の価格が高ければ差額を受け取れますが、安くなっていると損をします。また売りを行っていた場合、購入時（先行売却時）の価格よりも高くなっていれば損をしますが、限月時に安くなっていれば売却益を得ることができます。

売買の単位は「枚」と呼ばれ、一枚は米50俵、一俵60kgなので最低取引単位は3トンとなります。限月は1年先ですので、コメ先物取引の最初の限月は2025年6月30日（2024年8月には直前の6月限月分が取引された）になります。この時の価格は15,766円でした。この時購入した投資家が、現在（2月28日時点）の価格水準のまま6月の限月を迎えたとしたら、一枚当たりいくらの儲けになるのか、計算してみましょう。

決済価格（27,242円）－買付価格（15,766円）＝利益（11,476円）

利益（11,476円）×取引単位（50俵）×枚数（1枚）＝573,800円の利益

となります。取引をするには担保として預ける「証拠金」が必要になりますが、「堂島コメ平均」の場合、証拠金の数十億程度の額の取引を行うことができるとされており⁸、来週（3月3日以降）の証拠金は一枚当たり56,250円となっています。

単なるコメ転がし業者が、この先物取引を利用していたとすれば、政府備蓄米の放出に動じることなく、高値維持を図ることもあり得るのではないのでしょうか。

もう一つ、実はそもそも言われるような「消えたコメ」、つまりコメ転がしをしている業者など存在しないという指摘もあります。

⁷ https://www.hoxsin.co.jp/online/d-sta/rice_index.htm

⁸ https://go.sbisec.co.jp/lp/odex_rice.html

『週刊新潮』の2025年2月27日付が次のように報じています⁹。

「23年9月にできた新米は10月から翌年9月まで食べることになります。だから7月末というのは端境期ですが、在庫量82万トンは空前の少なさです。前年と比較して40万トンも足りていません。1ヵ月分の流通数量は45万トンくらいですから8月9月の流通量を賄えないレベルの在庫量だったのです。不作になると大変でした」

そこで起こったのが先食いである。

「コメが足りないので、24年産のコメで収穫されたものを先食いしたわけです。これによって今度は24年10月から25年9月までに供給される量がその分だけ減少します。その証拠に、24年11月、12月の民間在庫は前年同月と比べてそれぞれ43万トン、44万トン減っています」

「前年比で生産量は18万トン増えているのでコメは不足していない。21万トンは業者が買い占めている、と言っていますが、40万トンの“先食い”分を無視しています。単純にコメが足りていないだけなのです」（元農水官僚でキャノングローバル戦略研究所研究主幹の山下一仁氏）

もし山下氏の指摘する通りなら、コメ先物取引に参加した投資家は現在の高値のまま6月の限月を迎えることができるかもしれません。しかも不要なコメの確保をする必要もないのですから好都合でしょう。彼らにとって必要なことは、政府が確実な手を打っているということを市場に信じ込ませ、その実コメ市場でのコメ不足を放置することです。

実際には市場の必要分を補充することですから、コメ不足が常態化しているコメ市場にとっては米価が下がるだけの余剰供給は起こらないということになります。

今月は米の価格高騰について考えてきました。不確実な情報が多く、必ずしも正確な分析ができたわけではありませんが、一つ言えることは米農家の経営を維持するうえで、これまでの米の価格は安すぎたことと、政府の農業政策の失敗が極端な値上がりを引き起こしてしまったこと、そしてそのような米価の乱高下を歓迎する金融取引が行われていることです。

少なくとも自民公明連立政権には国民の食の安全を図る意思はないと言わざるを得ません。

☆＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝☆☆

●＝＝＝＝[再論 唯物論的社会契約論 下書き]＝＝＝＝●

⁹ 引用はWeb版による。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/499203a02060992d592670587535c5fdf81871bd?page=3>
https://www.dailyshincho.jp/article/2025/02280559/?utm_source=yahoo&utm_medium=http&utm_campaign=link_back&ui_medium=http&ui_source=yahoo&ui_campaign=link_back

今回は国家論を掲載する予定でしたが、紙面の関係から次回に掲載させていただきます。悪しからずご了承ください。

●=====●

◆===== [コラム] =====◆

ドナルド・トランプ。軽薄・軽率にしてその本性は「強欲」。アメリカ第一というが、そうではない。アメリカ唯一であり、そのアメリカとは富裕層のアメリカである。

品性下劣にして恥を知らず、正義を知らず、他国の弱みに付け込んで己が利益のみを貪欲に追求する姿はまさにハイエナのごとし。科学に無知である上に、崇拝するのは神にあらず、金である。

アメリカ国民はこのような大統領を頂いたことに羞恥の念を抱くことだろう。

◆=====◆

【活動報告】

次回は4月1日に発行の予定です。